

2026ライラックチャレンジ 新体操男子個人競技 レベル別規則

日本体操協会競技規則および採点規則一部改定を適用する。ただし、次のレベル別規則を優先とする。

レベル	種目数	採用難度	構成 (加点方式・要素項目)	実施 (減点方式)	適用規則
Lv10	4	E難度 まで	・難度要素 (D) は、タンブリング及び徒手の難度成立の都度「E+0.7、D+0.5、C+0.3、B+0.2、A+0.1」を加点する。ただし、上位「6つ (タンブ3つ、徒手3つ)」までの難度を加点対象とする (最大+4.2)。 ・加点要素 (D) は、規則通りの加点対象とする。 ・加点要素 (D) は、難度のレベルに関わらず成立した難度の数に合わせて「7つ成立+0.7、6つ成立+0.6、5つ成立+0.5」を加点する。 ・技術的価値 (A) は、構成の途切れなく演技した場合に「+0.5」を加点する。	・10点満点の減点方式 とし、適用規則に応じて 減点をする。	高体連一部競技規則に準ずる。
Lv9	2				ジュニアルールを採用する。
Lv8	2				高体連一部競技規則に準ずる。
Lv7	2	D難度 まで	ジュニアルールを採用する。		
Lv6	2		高体連一部競技規則に準ずる。		
Lv5	2	C難度 まで	ジュニアルールを採用する。		
Lv4	2		高体連一部競技規則に準ずる。		
Lv3	2	B難度 まで	ジュニアルールを採用する。		
Lv2	1		ジュニアルールを採用する。		
Lv1	徒手		・日本体操協会 個人徒手ルールに準ずる。		ジュニアルールを採用する。

(1) レベル2に出場する選手は、スティック・リング・ロープ・クラブから1種目を選択すること。

(2) レベル3～6に出場する選手は、スティック・ロープから1種目、リング・クラブから1種目を選択すること。

(3) レベル2およびレベル3で上位3位になった選手は、次年度以降に上のレベルに出場しなければならない。(R5年度より適用)

(4) 構成要素(A)の加点については、別紙「ライラックチャレンジ 加点要素一覧表」に記載。

2026ライラックチャレンジ 新体操男子団体競技 規則

レベル	種目	構成(減点方式・要素項目)	実施	適用規則
Lv2	徒手	【難度要素(D)】 ・タンブリング及び徒手において、「E+0.7、D+0.5、C+0.3、B+0.2、A+0.1」を加点する。ただし、上位「6つ(タンブ3つ、徒手3つ)まで」の難度を加点対象とする。 ・加点要素は、規則通りの加点対象とする。 【構成要素(A)】 ・10点満点の減点方式とし、適用規則に応じて減点をする。	・10点満点の減点方式とし、適用規則に応じて減点をする。	新体操男子規則2025版に準ずる。
Lv1		【難度要素(D)】 ・タンブリング及び徒手において、「E+0.7、D+0.5、C+0.3、B+0.2、A+0.1」を加点する。ただし、上位「6つ(タンブ3つ、徒手3つ)まで」の難度を加点対象とする。 ・加点要素は、規則通りの加点対象とする。 【構成要素(A)】 ・10点満点の減点方式とし、適用規則に応じて減点をする。		ジュニアルールを採用する。

(5) 全レベル、参加(年齢)制限なし。